

串毛地区振興計画書

健康でくらしやすい里・串毛



令和5年3月1日

串毛地区自治運営協議会

はじめに

串毛地区では、昭和40年代に入ってから、農業振興地域整備計画が実施されるに至って、地域のほとんどが農用地の指定を受けてからの当地区は、土地の開発が厳しく規制された結果、都市化の波から取り残されて現在では、昔ながらの集落形態を残す閑静な農村地帯となっております。このことは、自然と共生できる住環境の優れた地域としては高く評価される反面、道路が改善されないため、利便性に欠ける点では大きな課題を残す地域となってしまいました。

平成に入ってから、県道吹原・本分線、岩野・黒木線の改良が進められており、地域の進展に大きく期待しております。

年号が平成から令和に変わりましたが、令和2年からの新型コロナウイルスの蔓延により、人の流れが自粛・規制され、地域の経済にも大きな影響を与えております。

今回の地域振興計画（案）は、当初平成25年に計画がなされてから10年を経過するにあたって、見直し、追加を行うものです。このたびの計画(案)の策定に当たりましては、「地域の抱える課題を住民の目線で捉え行政との協働で住みよいまちづくりを考えていこう」という市の呼びかけに、地区民によるワークショップで取り組んできました。

先ず始めに、まちづくりへの取り組み方について専門家のアドバイスを受け、地域住民のわがまちへの思いを知るためのアンケートを行いました。そして最後に会員の意見も持ち寄り、それらを細かく分析して、メンバーを重点項目の基盤・福祉・環境の3部門に分け、いろいろの角度から検討しました。

まとめに当たって意見の分かれるところは併記としました。この点につきましては、今後地域と行政の協働によるコミュニティ計画推進の中で更に検討を加える必要がありますが、実現可能な課題から逐次具体化を進め、少しでも多くの問題が解決に向かうことを念願してやみません。

最後に、この計画(案)の策定にあたってご協力をいただいた地域の皆さんや関係機関の方々に心からお礼申し上げます。

串毛地区自治運営協議会
会長 中島 龍良

1. 地区の現況

■地 勢

串毛地区は、八女市黒木町中心部の南西に位置し、八女市立花町、熊本県山鹿市と境を接しています。地域には2本の河川がそれぞれ南から北へ流れ、1級河川矢部川に注いでいます。田代川筋には上田代、中田代、下田代の3つの集落があり、鹿子生川筋には鹿子生、上名、中名、下名の4つの集落があり、それぞれ中山間地の農園が広がっています。

田代地区南東部には雄岳標高532.2mの山があり、熊本県との境界となっています。

■歴 史

土窪の若一王子神社は黒木町で一番古い神社といわれ、12代景行天皇4世紀後半に創建されたものといわれています。

藩政時代には柳川藩に属し、田代の八龍神社には立花鑑通公が風流を納めたとされ、その時の踊りと大名行列が県の無形文化財となっています。

市町村制の施行により、明治22年、上妻郡土窪村・鹿子生村・田代村の三村を合わせ、三村の境にある溜池の名称として串毛村と改称しました。(串外→毛→房々とした郡毛、豊作を祈願したもの)その後昭和23年に、大字鹿子生の一部遠久谷の区域は隣村光友村に所属することになりました。

昭和29年に黒木町・豊岡村・串毛村・木屋村・笠原村が合併し、黒木町となりました。

串毛地区はみかんの産地で、経済の高度成長期にはみかん園を拡張し、標高300～400mの山全体が果樹園となりました。しかし、昭和40年代後半になると生産過剰になり、栽培面積も縮小され、改植のほか、りんご・すもも・くり・キウイなどの落葉果樹に切りかえるところもでてきました。また、同時期には米の生産調整が始まり、苺・ナス・花等の施設園芸栽培が盛んになりました。

明治の初期に創立された小学校は、児童数の減少により、昭和53年、串毛小学校が豊岡小学校と統合し、黒木西小学校として旧豊岡村の地に開設されました。田代小学校も平成19年黒木西小学校に編入されました。

■ 人口と少子高齢化の状況

串毛の人口は、令和 2 年の国勢調査によると 958 人であり、昭和 55 年と比較して約 48% と減少しています。

特に年少人口比率、高齢化比率を昭和 55 年と令和 2 年で比較すると、少子高齢化が著しく進んでいます。

人口の推移

	S55	H2	H12	H22	R2
串 毛	1,995	1,851	1,566	1,238	958
黒木町	17,705	16,616	14,685	12,914	9,926

少子化の状況

	S55		H22		R2	
	年少人口比率	高齢化率	年少人口比率	高齢化率	年少人口比率	高齢化率
串 毛	—	—	7.1	38.5	6.6	48.4
黒木町	21.7	13.8	10.3	33.8	8.9	43.8

■ 地域交流の状況

串毛地区では小学校、保育園及び各種団体とも活発に活動を行っており、地域ぐるみで各行事に取り組んでいます。

串毛コミュニティセンターのほかに田代農村活性化センター、鹿子生集落センターがあり、集落ごとに公民館(集会所)もあり、公民館活動を行っています。

このように幅広い世代により地域活動が行われており、世代間交流の促進にもつながっています。

2. まちづくりの現状と課題

串毛のまちづくりの課題を抽出するため、まず、現状調査を行いました。

現状調査は主に、全区長に区域内における問題点の聞き取り調査を行いました。

この調査の結果を基に、生活基盤、地域福祉、環境の3つの部門に分け課題の抽出を行いました。

(1) 生活基盤について

■ 串毛が今後とも活力ある地域であるために

串毛は、2つの谷に分かれてはいるが、地区として一体感が強く、地域交流が盛んです。このことは、現在まで目立った開発がされなかったため急速な人口増加がなく、人と人とのつながりが強固であることが要因の一つにあると思われます。

串毛の人口構成を黒木町全体と比較すると、年少人口比率が低く高齢人口比率が高い、少子高齢化が進んだ地域であるといえます。特に年少人口比率の低下が顕著に見られ、このことが、地域の活力低下につながってゆくのではないかと、という心配があります。

串毛が、今後とも活力ある地域で在り続けるためには、年少人口の減少に歯止めがかかり、子どもからお年寄りまで、すべての住民が、安心して仲良く暮らすことができる地域でないといけません。

人口減少への歯止め策については、将来に向けての検討課題と考えます。

■ 生活関連施設整備

串毛は、生活道が狭く、消防車・救急車が入れない場所も多くあります。すべての生活道を広げることは用地の関係もあり、困難なこととは思いますが、防災の観点からも、水路の蓋がけ等で対応できる箇所については、今後、道路幅を広げる対策を取るべきと考えます。

生活排水処理については、田代地区の農業集落排水事業が完成していますが、ほかの地区は昔のままです。矢部川の水質改善のためには、生活排水処理が必要で、トイレと生活雑排水の処理を合わせて行う、小型合併浄化槽の各家庭への設置が効果的です。小型合併浄化槽の助成制度の継続をお願いします。

旧田代小学校跡については、串毛の「貴重な市有地」として、住民の関心も高いところです。「この場所に地域の雇用を確保する企業誘致を」という声もありましたが、黒木町中心部よりあまりにも遠いため、企業誘致は実現していません。

今後も旧田代小学校跡地の有効利用については、住民と行政が一体となって取り組んで生きたいと考えます。

■ 災害に強い串毛に

平成 2 年豪雨災害、平成 24 年九州北部豪雨災害により串毛地区は大きな被害を受けました。24 年の災害は「これまで経験したことの無い大雨」であったため、激甚災害指定を受け災害復旧に遅れが目立ち、手づかずの場所が多く見られます。

水害対策については、河川改修、内水排除の両面から対策を進めなければなりません。また、避難場所についてもこれまでの場所が必ずしも「安全な場所」とはいえないことも判明しました。避難場所の再検討も行わなければなりません。

日頃からの災害に備える「自主防災組織」の更なる活動が必要です。

■ 安全・安心な串毛に

全国的に空き巣や放火などの犯罪が増加し、社会問題化しています。今のところ、串毛においては、空き巣や放火の被害はあまり聞こえてきません。お互いが顔見知りであり、日頃からあいさつし合うような良好な関係にあることが、犯罪を防いでいる要因になっているのではないかと考えます。

今後とも安全・安心な串毛を目指して、地域住民が連帯を図りながら、地区防犯に取り組みたいと考えています。

(2) 地域福祉について

■ 高齢者や障害者のすみよいまち

串毛で 65 歳以上の方は 464 人（うち 75 歳以上 273 人）、高齢化率は 48.4%(令和 2 年 4 月 1 日現在)ですが、比較的元気な方が多くおられます。黒木町地域交流センター藤の里が月一回、地区敬老会が年一回、高齢者の集える場を提供しておりますが、まだまだ自由に集える場が少ない状況です。そこで、自由に気軽に集える場について論議を重ねた結果、次のような案が出されました。

老人憩所、宅労所などの「新しい場」の建設は困難であると思われるので、今ある資源を活用することです。地区には コミュニティセンター、農村活性化センター、集落センター、公民館などたくさんの資源があります。もしかしたら、高齢者・障害者自身の自宅が「自由に気軽に集える場」になっているかもしれません。また、地区には外出したくてもできない方、外出したくない方がいるかもしれません。このような「場、人々」に関わっていくことで、つながりのある地域、住みよいまちになるのではないかと考えます。

また、「福祉＝与える」ものではなく、お互いができることを一緒に考えることができれば、

「生きがいつくり」や「楽しみ」の場になるのではないかと考えます。

■ 子どもが楽しく安全に遊べるまち

串毛には、山、里、川と自然が残されています。以前ならば、自然が子どもの遊び場でしたが、子どもの遊びが変わり、山や川で遊ぶことは少なくなっています。

その背景には、物が豊かになったことがあるのではないのでしょうか。今の子どもたちは、野山に入り、竹や木を使った手作りのおもちゃを作ることはなくなりました。

いうまでもなく、子どもたちが自然の中で遊ぶことは大切なことであり、そのことについては、現在の生活に合わせた子どもたちの遊び場についても考えていく必要があります。

また、地域で児童が健やかに成長するため、子どもたちを見守る地域の目配りや心配りが必要となってきます。特に小・中学生に対しての声かけや生活マナーの向上を地域住民がここがける必要があります。

■ 子どもから高齢者まで自然に交流できるまち

近年、核家族化や都市化など、様々な社会問題が要因となり人々の生活形態が変わり、隣近所や住民同士のつながりが少なくなってきました。

幸い、串毛コミュニティセンターと串毛グラウンド、田代農村活性化センターと田代グラウンドのように、子どもたちが日々の生活の中で高齢者と自然に触れ合う場があります。そこには誰が教えるわけではなく、高齢者に対して「思いやり」「やさしさ」などの気持ちが生まれることが期待されます。

(3) 環境について

■ 里山を復活させる

串毛地区は中山間地であり、ほとんどが山で平地はわずかしかなかった。

20～30年前までは果樹園が広がり、果樹の栽培やたけのこを掘るなどの山の役割がありました。子どもたちには遊び場でもあり、日常的に人が入り、自然と山道が保たれていました。しかし、現在では竹林が勢力を伸ばし、草に覆われている道もあり、山を訪れる人は年々少なくなっているようです。

昔に戻ることはできませんが、人々の足を再び山に向けさせ、里山らしい風情を取りもどすような努力をしていきたいと思えます。

■ 矢部川に清流を取り戻す

串毛の田園を潤し、川の恵みをもたらす田代川、鹿子生川は矢部川に注いでいます。

子どもたちが川で泳いだり魚を取ったりした時代もありましたが、コンクリート護岸の現在では水辺に下りていくことも容易ではありません。市内の河川としては良好な水質も、家庭排水の流入で悪化しています。また葦や灌木に流れ寄ったゴミは水流をさえぎり水害の原因となるため常に悩みの種です。

暮らしを守ることを第一に考えながら、水辺の環境を改善し川と親しむ暮らしに近づいていくことがこれからの課題です。

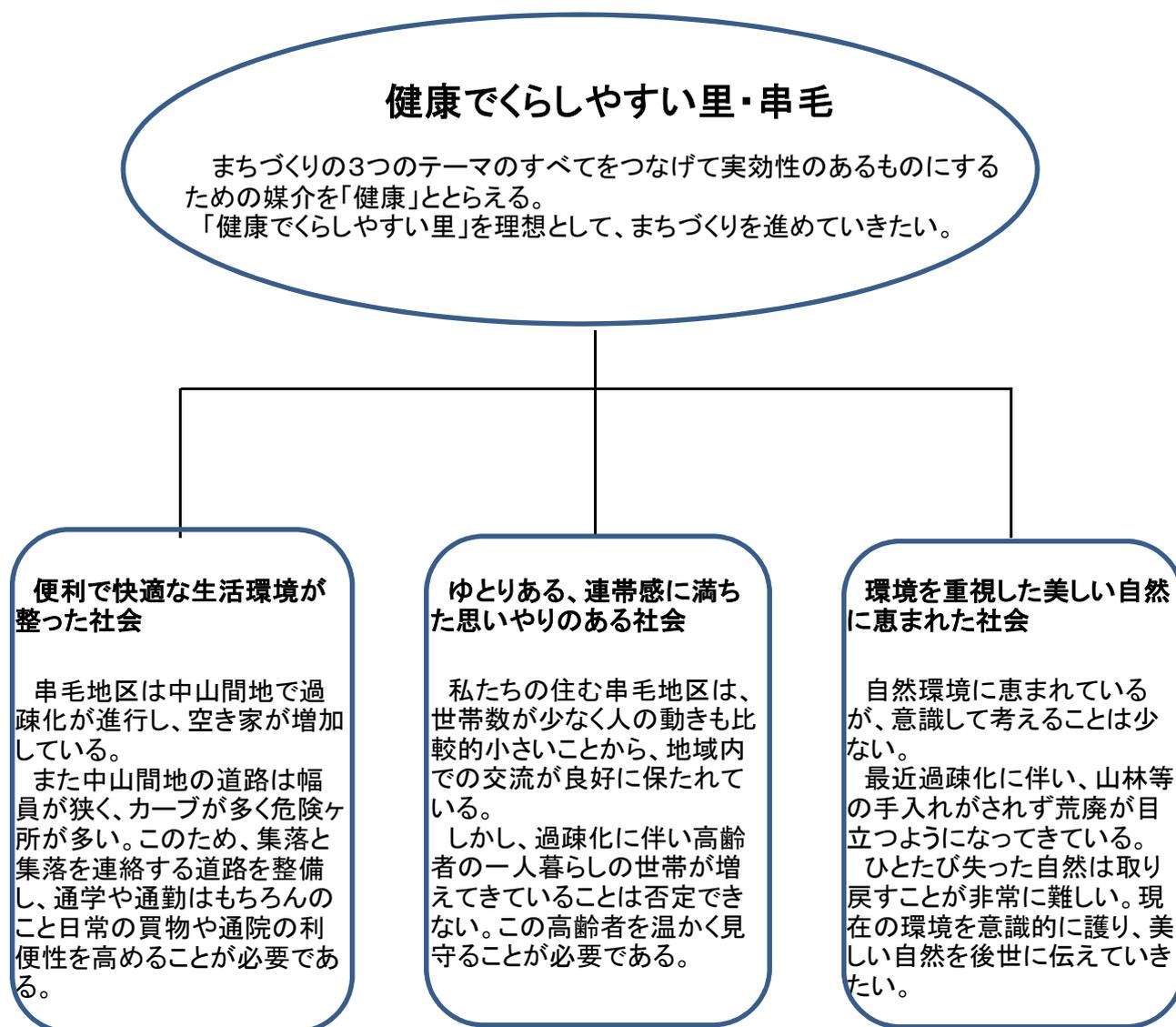
■ 里の景観を守る

串毛には現在でも田園が広がり、手付かずの自然が良好に残されています。しかしたくさん飛んでいたホタルもこのごろではほとんど見られなくなるほど、徐々に環境は悪化しています。

それぞれの集落の中に入ると落ち着いたたたずまいがあり、周りには田園が広がっている。この美点を意識しながらこれからの串毛を考えて生きたいと思います。

まちづくりの目標と取組

串毛のまちづくりの課題である、道路整備、高齢者福祉、環境の各課題解決に向けて、3つのテーマを決めました。この3つのテーマをつなぐまちづくりの目標が「健康で暮らしやすい里・串毛」です。



「健康で暮らしやすい里・串毛」の実現に向けて、3つのテーマ別に具体的方策の検討を行いました。そのうち、道路整備の充実及び行政区活動の推進については、計画的推進に向けて、より詳細に今後の活動内容についても記述しました。

□便利で快適な生活環境が整った社会

基本方針	現状	改善策	ID	具体的方策	活動主体		
					住民	行政	
住まい	空き家が増えている	空き家を有効活用する	1	貸すことの出来る住宅を登録する	○		
			防犯対策	2	防犯灯の充実		○
				3	挨拶運動・盗難防止にも	○	
				4	ウォーキング者に防犯の反射タスキ着用の協力を求める	○	
				5	警察パトロールの実施		○
	高齢者住宅・施設の整備が送れている	住宅、施設の整備	6	バリアフリー補助金の増額		○	
			7	コミセンの建物内の段差解消、公民館の車イス対応への改造		○	
			8	地域での高齢者施設の整備	○	○	
道路ネットワークの形成	道路整備の充実	県道の改良・整備	9	吹春・本分線(落合橋～本分間)の改築の早期完了と防災工事		○	
			10	岩野・黒木線の拡幅・改良、四条野橋の改良		○	
			11	岩野・黒木線の陣床の工事延長		○	
			12	442号から石原橋へ大型車が進入できるようにする		○	
			13	平瀬交差点の信号機の改善		○	
			14	災害対策道路の建設		○	
			15	吹原・本分線の影切、落石注意力所の対策		○	
			16	吹原・本分線の鹿子生区内の改良(カーブ修正・拡幅)		○	
			17	岩野・黒木線、栗林のカーブの拡幅・改良工事		○	
			18	岩野・黒木線、下田代桑鶴元集荷場上の拡幅		○	
			19	岩野・黒木線、下田代元納骨堂下の拡幅		○	
			20	岩野・黒木線、影切		○	
			21	岩野・黒木線、陣床地内工事の早期竣工を		○	
			市道の改良・整備	22	後野線の未改良部分の早期着工		○
				23	尾道・山口線の修繕工事と路肩整備		○
				24	上名大塚正数宅前の横断歩道の移動		○
				25	石原から立花町までの柳川用水沿いの市道改良		○
				26	大型車が串毛橋より下名方向へ右折できるように		○
				27	僧見・込野線、石原橋～込野間、矢部川沿いの道路のかさ上げ		○
				28	石原・剣ヶ淵線、中名、石原間、道路の山手側、影木を処理		○
				29	後野線(落合橋～文田)に2カ所程横断グレーチングの設置を		○
		30		石原・剣ヶ淵線、道路中央線等の白線が消えている(石原)		○	
		31		石原・剣ヶ淵線、上名の曲がりの法面崩壊対策		○	
		管理	32	市道鬼ヶ藪線の路肩及び路面の改修		○	
			33	道路の美化(道路愛護による草刈、清掃)		○	
			34	市による重機での路肩整備		○	
			35	道路愛護補助金の増額	○	○	

			36	パワーショベル、ホイールローダー等の配備(機械化、除草剤等)		○	
			37	迂回路の整備と管理を		○	
			38	自治運営協議会が市へ道路改良の要望・用地相談協力	○		
災害復旧	災害復旧工事の迅速化	県道の災害復旧	39	吹春・本分線(落合橋～本分間)の道路災害復旧		○	
			40	吹春・本分線(落合橋～本分間)の河川災害復旧		○	
			41	吹春・本分線(落合橋～本分間)の水路災害復旧		○	
				42	岩野・黒木線(藤原地内)の道路災害復旧		○
		市道の災害復旧	43	市道災害復旧(100箇所以上)の迅速化		○	
		避難ヶ所	44	避難ヶ所の再検討(避難場所が遠い)	○	○	
			45	串毛コミセン進入道路(生涯学習センターの西より)		○	
公共交通ネットワークの形成	ふる里タクシーの使い勝手が悪い	運用の見直し	砂防、治山工事	46	砂防、治山工事(下名、鹿子生、田代地区)		○
			47	他のエリアへも1回の乗車で行けるように		○	
			48	運行回数増便を		○	
			49	料金見直し		○	
			50	独居老人問題(車の運転等の行動が心配)	○	○	

□ゆとりある、連帯感に満ちた思いやりのある社会

基本方針	現状	改善策	ID	具体的方策	活動主体	
					住民	行政
生きる価値	高齢者になって外出しない	生きがいを感じる行事、活動	51	地区民体育大会、グランドゴルフ、ゲートボール、花壇作り	○	
			52	お宮、公園、集落センター等清掃ボランティア	○	
			53	竹トンボ、凧等昔の遊びの伝承	○	
			54	子どもの見守り	○	
			55	簡単に栽培できる換金作物の発見・発掘	○	
		環境づくり	56	ふる里タクシーの充実、道路整備		○
近所づきあいの推進	概ね良好だが更なる充実を	気軽につきあえる場を創る	57	行政区内のマップを作成し、散歩道にする。	○	
			58	あいさつ運動(信頼関係が生まれる)	○	
			59	地域でラジオ体操の実施	○	
			60	公民館に健康器具設置	○	○
		近所づきあいの充実	61	他地区で実施していた黄色い畑の立て下ろし(安否の確認)	○	
			62	要援護者登録を積極的にする	○	
			63	地域内の趣味、サークル活動の掘り起こし	○	
			64	高齢者世帯の見回り	○	
交流の場の創出	文化面での交流の場が少ない	新たな「場」をつくる	65	文化面を強化(上映会、コンサート)	○	
			66	テレビゲーム大会	○	
			67	バーベキュー会	○	
			68	校区内、部落内での交流の場が年々減少してきている。	○	
		活動の場所	69	コミセン、公民館の無料開放	○	○
			70	空農地利用の換金作物栽培	○	
			71	地域支援センターの利用	○	○
			行政区活動の推進	活動の充実	72	地区民全員による不法投棄等の確認
73	連絡班長による文書での情報提供	○				
74	介護保険給付の勉強会開催	○			○	
75	緊急時の高齢者対策	○			○	
76	神社行事の維持・継続	○				
77	道路愛護、河川清掃、公共施設清掃の維持継続	○				
78	定例的な健康教室等の実施、講演会の開催	○			○	
79	耕作放棄地対策	○			○	
組織の強化	80	公民館を利用し宅老所をつくり、ボランティアを募る(補助)			○	○
	81	自治運営協議会の活性化(若年層の取り込み、女性役員の増)			○	
	82	女性、若年層の意見を重視、実行(参加の喜び)			○	

□環境を重視した美しい自然に恵まれた社会

基本方針	現状	改善策	ID	具体的方策	活動主体	
					住民	行政
身近な生活環境の重視	集落が日陰になっている	杉等の伐採	83	石原～中名(若一王子神社まで)間の土地を買い上げて四季楽しめる	○	○
			84	杉等を伐採し、背の低い作物を作る。紅葉、桜等を植える。	○	
			85	花木公園、御神木公園の拡充による彩の里づくり	○	○
			86	串毛小学校跡の記念碑廻りの清掃を	○	
			87	串毛グラウンドを、洪水前の水はけの良いグラウンドに		○
	道路法面、河川敷が荒れている	道路法面、河川敷の整備	88	上名公民館下、矢部川のヨシ及び中州を除去し、砂利河原の復元	○	○
			89	ゴミ問題は教育が大事、先進地の取組を勉強	○	
			90	農地耕作放置対策を		○
			91	上河原消防道路に防水扉の設置		○
			92	鹿子生地内の多目的広場のコンクリート舗装		○
			93	集落周辺の整備(花木等の植樹)	○	○
			94	中山間直接支払(集落協定)制度の事業延長		○
荒廃山林の再生	山林の手入れがされていない	継続的な森林の管理	95	荒廃竹林の材栽事業の継続	○	○
			96	若一王子神社北側の竹、雑木を伐採		○

取組みのまとめ

基本目標 1. 便利で快適な生活環境が整った社会

施策	具体的な取組み	実施主体		む す ぐ に 取 り 組 む	な が ら 少 し 案 を 練 り	を か け て じ つ く り 時 間
		主	部会			
空き家を有効活用する	貸すことの出来る住宅を登録する		生安	○		
防犯対策	防犯灯の充実	行政	生安	○		
	挨拶運動・盗難防止にも		生安	○		
	ウォーキング者に反射タスキ着用の協力を求める		生安	○		
	警察パトロールの実施	行政	生安	○		
住宅・施設の整備	バリアフリー補助金の増額	行政	生安	○		
	コミセンの建物内の段差解消、公民館の車イス対応への改造	行政	生安	○		
	地域での高齢者施設の整備	行政	生安		○	
県道の改良・整備	吹春・本分線（落合橋～本分間）の改築の早期完了と防災工事	行政	生安	○		
	岩野・黒木線の拡幅・改良、四条野橋の改良	行政	生安	○		
	岩野・黒木線の陣床の工事延長	行政	生安	○		
	442号から石原橋へ大型車が進入できるようにする	行政	生安	○		
	平瀬交差点の信号機の改善	行政	生安		○	
	災害対策道路の建設	行政	生安			○
	吹春・本分線の影切、落石注意ヶ所の対策	行政	生安	○		
	吹春・本分線の鹿子生地内の改良（カーブ修正・拡幅）	行政	生安	○		
	岩野・黒木線の栗林のカーブ拡幅・改良工事	行政	生安	○		

	岩野・黒木線、下田代桑鶴元集荷場上、元納骨堂下の拡幅	行政	生安	○		
	岩野・黒木線、影切	行政	生安	○		
	岩野・黒木線、陣床地内工事の早期竣工	行政	生安	○		
市道の改良・整備	後野線の未改良部分の早期着工	行政	生安	○		
	尾道・山口線の修繕工事と路肩整備	行政	生安	○		
	鬼ヶ藪線の路肩及び路面の改修	行政	生安	○		
	上名大塚正数宅前の横断歩道の移動	行政	生安			○
	曲がりの法面崩壊対策	行政	生安	○		
	下名公民館への道路拡幅	行政	生安	○		
	石原から立花町までの柳川用水沿いの市道改良	行政	生安	○		
	大型車が串毛橋より下名方向へ右折できるように	行政	生安	○		
	僧見・込野線、石原橋～込野間、矢部川沿いの道路のかさ上げ	行政	生安	○		
	石原・剣ヶ淵線、中名、石原間、道路の影切	行政	生安	○		
	後野線（落合橋～文田）2カ所程横断グレーチングの設置	行政	生安	○		
石原・剣ヶ淵線、道路中央等の白線が消えている	行政	生安	○			
管 理	道路の美化（道路愛護による草刈、清掃）	行政	生安	○		
	市による重機での路肩清掃	行政	生安		○	
	道路愛護補助金の増額	行政	生安	○		
	パワーショベル、ホイールローダー等の配備（機械化、助走等）	行政	生安		○	
	迂回路の整備と管理を	行政	生安		○	
	自治運営協議会が市へ道路改良の要望・用地相談協力		生安	○		

県道の災害復旧	吹春・本分線（落合橋～本分間）の道路災害復旧	行政	生安	○		
	吹春・本分線（落合橋～本分間）の河川災害復旧	行政	生安	○		
	吹春・本分線（落合橋～本分間）の水路災害復旧	行政	生安	○		
	岩野・黒木線（藤原地内）の道路災害復旧	行政	生安	○		
市道の災害復旧	市道災害復旧（100 か所以上）の迅速化	行政	生安	○		
避難箇所	避難ヶ所の再検討（避難場所が遠い）	行政	生安	○		
	串毛コミセン進入道路（生涯学習センターの西より）	行政	生安			○
砂防、治山工事	砂防、治山工事（下名、鹿子生、田代地区）	行政	生安			○
運用の見直し	他のエリアへも1回の乗車で行けるように	行政	公民			○
	運行回数増便を	行政	公民			○
	料金の見直し	行政	公民		○	
	独居老人問題（車の運転等の行動が心配）	行政	公民		○	

基本目標 2. ゆとりある、連帯感に満ちた思いやりのある社会

施 策	具体的な取組み	実施主体		む す ぐ に 取 り 組 む	な が ら 少 し 案 を 練 り	を か け て じ つ く り 時 間
		主	部会			
生きがいを感じ る行事、活動	地区民体育大会、グランドゴルフ、 ゲートボール、花壇作り		公民	○		
	お宮、公園、集落センター等清掃ボ ランティア		公民	○		
	竹トンボ、凧等昔の遊びの伝承		公民		○	
	子供の見守り		公民	○		
	簡単に栽培できる換金作物の発見、 発掘		公民		○	
環境づくり	ふる里タクシーの充実、道路整備	行政	公民		○	
	串毛小学校跡の記念碑廻りの清掃		公民	○		
	串毛グラウンドを洪水前の水はけの 良いグラウンドに	行政	公民	○		
気軽につき あえる場を 創る	行政区内のマップを作成し、散歩道 にする		公民		○	
	あいさつ運動(信頼関係が生まれる)		公民	○		
	地域でラジオ体操の実施		公民	○		
	公民館に健康器具設置	行政	公民		○	
近所づきあ いの充実	他地区で実施していた黄色い旗の立 て下ろし(安否の確認)		公民		○	
	要援護者登録を積極的にする		公民		○	
	地域内の趣味、サークル活動の掘り 起こし		公民		○	
	高齢者世帯の見回り		公民	○		
新たな{場} を作る	文化面を強化(上映会、コンサート)		青少年	○		
	テレビゲーム大会		青少年		○	
	バーベキュー大会		青少年	○		

	校区内、部落内での交流の場が年々減少している		公民		○	
活動の場所	コミセン、公民館の無料開放	行政	公民		○	
	空農地利用の換金作物栽培		公民		○	
	地域支援センターの利用	行政	公民	○		
活動の充実	地区民全員による不法投棄等の確認		公民	○		
	連絡班長による文書での情報提供		公民	○		
	介護保険給付の勉強会開催	行政	公民		○	
	緊急時の高齢者対策	行政	公民	○		
	神社行事の維持・継続		公民	○		
	道路愛護、河川清掃、公共施設清掃の維持継続		公民	○		
	定例的な健康教室等の実施、講演会の開催	行政	公民	○		
	耕作放棄地対策を	行政	公民		○	
組織の強化	公民館を利用し宅老所をつくり、ボランティアを募る（補助）	行政	公民		○	
	自治運営協議会の活性化（若年層の取り込み、女性役員の増）		女性	○		
	女性、若年層の意見を重視、実行（参加の喜び）		女性	○		

基本目標 3. 環境を重視した美しい自然に恵まれた社会

施 策	具体的な取組み	実施主体		む す ぐ に 取 り 組 む	な が ら 少 し 案 を 練 り	を か け て じ つ く り 時 間
		主	部会			
杉等の伐採	石原～中名（若一王子神社まで）間の土地の買い上げ、散歩道公園化	行政	経済			○
	杉等を伐採し、背の低い作物を作る、紅葉、桜等を植える		経済			○
	花木公園、御神木公園の拡充による彩の里づくり		経済	○		
	若一王子神社の北側の竹、雑木を伐採		経済	○		
道路法面、河川敷の整備	上名公民館下のヨシ及び中洲を除去し、砂利河原の復元	行政	経済			○
	ゴミ問題は教育が大事、先進地の取組みを勉強		公民	○		
	上河原消防道路に防水扉の設置		経済	○		
	鹿子生地内の多目的広場のコンクリート舗装		経済	○		
継続的な森林の管理	集落周辺の整備（花木等の植樹）	行政	経済	○		
	中山間直接支払（集落協定）制度の事業延長	行政	経済	○		
	荒廃竹林の伐採事業の継続	行政	経済	○		